

## 3. 教 育

---

Education



## 【1】 人財育成の取組み

### 1. 「教育」が目指す人財育成像

学部縦割りであった教育課程を見直し、地域志向型人財として必要な知識・技能の育成という視点から教育課程を再編する。再編は、文理の枠を越えて総合的にアプローチできる文理融合型人財育成、青森県の戦略プロジェクト(①人口減少克服、②健康長寿県、③食でとことん)や、弘前市の「市民参加型社会」の実現に特化した人財育成(地域特定プロジェクト志向専門人財の育成)などの視点から行う。また、学修達成度を判断する評価基準「ルーブリック」と、学修の蓄積・可視化を可能にする「地域志向e-ポートフォリオ」による教育の質の保証を確立する。これらを実施することにより、地域志向型人財(①グローバルマインドを持ち、地域に対する愛着、地域の創造を目指す意欲をもった人財、②複雑化する地域課題に文理の枠を越えて、総合的にアプローチできる文理融合型の人財、③獲得した専門知を活用して、地域の課題解決を主導できる人財)を育成する。

### 2. 目指す人財育成のためのカリキュラム改革

地域志向型人財として必要な知識・技能の修得という視点から、教育課程を再編する。

#### ■ 文理融合型／地域特定課題を解決できる人財育成

#### (1) 地域「実践力」を育成する初年次教養教育

- a 青森を対象とした課題解決型学修「地域学ゼミナール」の必修化 (教養教育 2単位)
- b 青森の歴史・文化・特色を学ぶ科目群「ローカル科目」の必修化 (教養教育 2単位)

#### (2) 入学から卒業までの「地域を志向したキャリア教育」 (教養教育 必修 2単位×2科目)

#### (3) 「専門知」と「地域の課題」を交差させる「専門力」の育成

- a 分野横断的内容(文理両面からアプローチ)／青森に関する内容／能動的学修の3つをコンセプトとした科目群「学部越境型地域志向科目」を新設・必修化 (教養教育 2単位)
- b 地域の特定プロジェクト(青森県の戦略プロジェクト、弘前市の「市民参加型社会」)を実現できる専門人財育成のための教育プログラムの開発、本学独自の称号の付与

### 3. 地域志向カリキュラムの特徴

#### ■ 卒業までに少なくとも5科目以上地域志向科目を履修

1年次の「ローカル科目群」「地域学ゼミナール」「キャリア形成の基礎」、2年次以上の「学部越境型地域志向科目群」「キャリア形成の発展科目群」を必修化。

#### ■ 教育の質の保証

ルーブリック(評価基準)とe-ポートフォリオ(学修のふりかえり)を活用した学生自身のPDCAサイクルの確立。

地域志向カリキュラムのスケジュール

学年	1年 (前期)	1年 (後期)	2年	3年	4年
地域に関する科目	選択必修 ローカル科目群	必修 地域学ゼミナール	選択必修 学部越境型地域志向科目群		
キャリア教育		必修 キャリア形成の基礎	選択必修 キャリア形成の発展科目群		
地域特定プロジェクト			地域特定プロジェクト志向専門人財育成のための教育プログラム		

4. 卒業後の学生のイメージ

地域志向カリキュラムを履修した学生の卒業後のイメージは以下の内容である。

- 食・農を中心に、ニュー・ビジネス開発ができる「起業家(アントレプレナー)」
- 観光活性化による交流人口増加や農漁村の地域経営の確立において中核となる人財
- 予防医療や高齢者の生きがいを生み出すまちづくりを牽引する人財

5. 平成26年度の実践

■ 事例1 「課題解決型学修における実践」

青森の地域課題をテーマとした課題解決型学修を全学体制で実施するため、教員向け手引き書を作成し、平成27年度から試行を開始する。さらに、反転授業のコンテンツ開発等を行った。

また、教養教育の授業の約50%に能動的学修を導入することを目指し、能動的学修の専用教室も新たに設けるなど、教育環境を整備した。

■ 事例2 「学部横断の教育プログラム開発」

本学の4学部(人文・教育・医学・農学生命)の教員が協力し、文理に渡る授業の開発に取り組んでいる。4プログラムの開発を目指し、現在、青森県の地域ブランド作物を取り上げ、作物栽培者を焦点とした社会関係の実態調査、青森の果樹栽培の優位性等の実態調査を行い、議論する授業などを実践している。

## 【2】 教育改革への取組み

### 1. 地域志向型人財を育成する教養教育の教育課程の策定

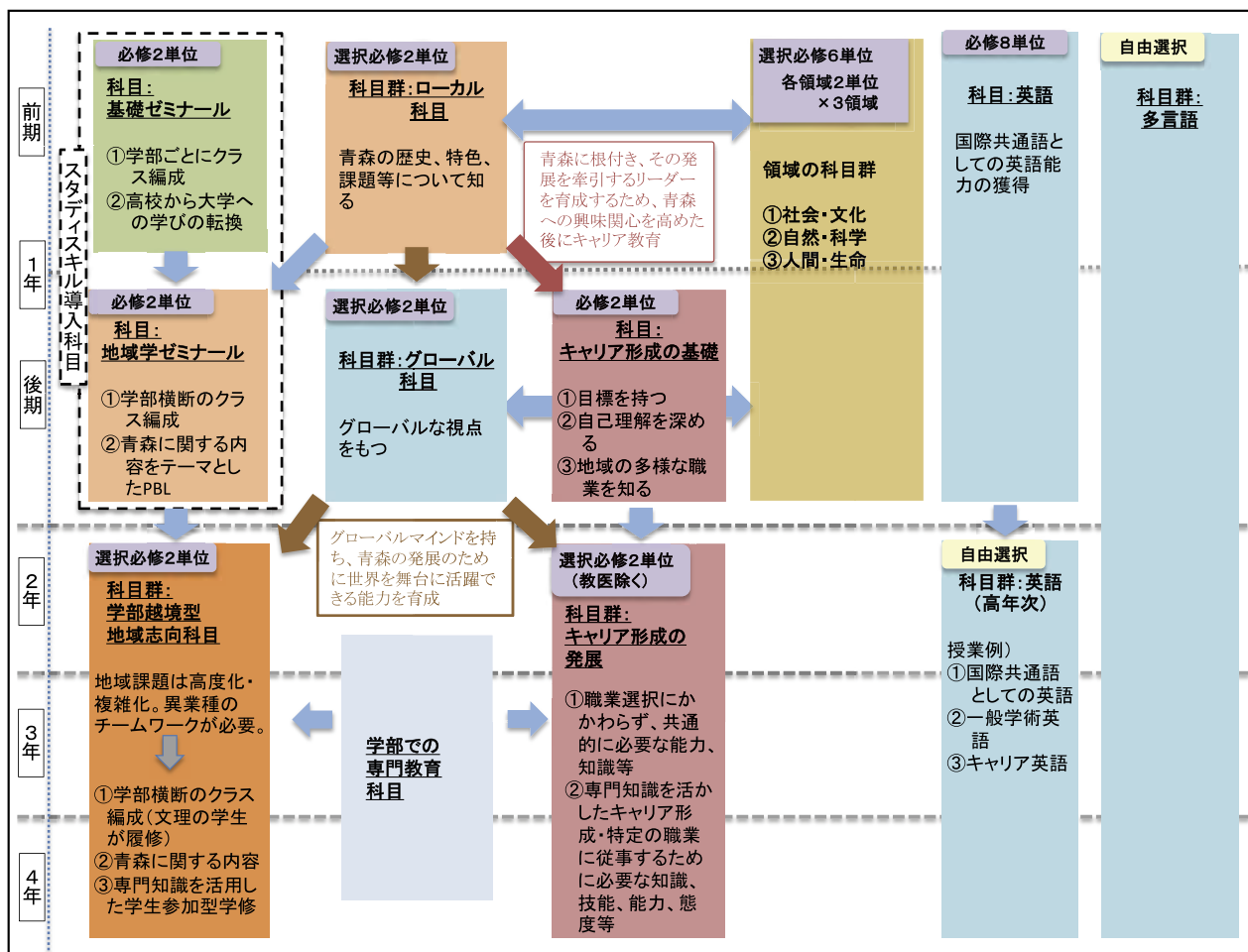
本学の教育推進機構を組織する教育推進機構会議(教育担当理事が機構長)において、新しい教養教育の目的を決定し、教育推進室(教育担当理事が室長)において、具体的な検討を開始した。

#### ■ 教養教育の目的

- ① 主体的・能動的学修への転換
- ② 文理融合教育による多元的な視点や思考法の獲得
- ③ 国際共通語としての英語能力の獲得
- ④ 地域志向性(地域が持つ強みや課題の理解、課題解決への意欲等)の涵養
- ⑤ 国際性(異文化理解、多文化共生等)の涵養

上記の教養教育の目的を達成するための科目群の内容、地域志向性の涵養の中核となる「地域学ゼミナール」の達成目標や評価基準等について検討を行った。

#### ■ 教養教育のカリキュラムの流れ



■ 地域学ゼミナールの概要

初年次後期において、地域をテーマとした課題解決型学修(必修)を行う。

達成目標は以下のとおりである。

- ① 学部横断チームの一員として自分の役割を認識し行動できること
- ② 学部横断チームの一員として他者の役割を判断し適切に働きかけることができること
- ③ 地域の問題に関する資料(情報)の検索・収集・整理ができること
- ④ 発表会で適切な行動ができること
- ⑤ 地域が有している課題を発見できること
- ⑥ 地域が有している課題に対し、解決策を提案できること

上記達成目標に対するルーブリックの案は以下のとおりである。

達成目標	評価対象	評 点				
		4	3	2	1	0
①学部横断チームの一員として自分の役割を認識し行動できること	①チームに貢献する行動	自分の役割を認識し、得意分野を生かし積極的に行動できる	自分の役割を認識し行動できる	自分の役割の認識や行動に多少不十分な部分がある。	自分の役割の認識や行動に不十分な部分が多い	チームの一員として行動できない
②学部横断チームの一員として他者の役割を判断し適切に働きかけることができること	②チームメンバーへの働きかけ	メンバーの個性を把握し、役割分担の判断やメンバーの行動を促す働きかけができる	チーム内の役割分担やメンバーの行動を促す働きかけができる	チーム内の役割分担やメンバーの行動を促す働きかけがややできる	チーム内の役割分担やメンバーの行動を促す働きかけがあまりできない	チーム内の役割分担やメンバーの行動を促す働きかけができない
③地域の問題に関する資料(情報)の検索・収集・整理ができること	③-1検索・収集	必要な情報と関連情報を豊富に集めることができる	必要な情報を集めることができる	必要な情報をある程度集めることができる	必要な情報をあまり集められない	必要な情報を集められない
	③-2理解・整理	情報を理解・整理が十分できる	情報の理解・整理ができる	情報の理解・整理にやや問題がある	情報の理解・整理にかなり問題がある	情報を理解・整理できない
④発表会で適切な行動ができること	④-1発表資料作成	体裁が優れた発表資料を作成できる	体裁にほぼ問題がない発表資料を作成できる	体裁にやや問題がある発表資料を作成できる	体裁にかなり問題がある発表資料を作成できる	発表資料を作成できない
	④-2発表表現	話し方や発表資料の使い方などが優れた発表ができる	話し方や発表資料の使い方にほぼ問題がない発表ができる	話し方や発表資料の使い方にやや問題がある発表ができる	話し方や発表資料の使い方にかなり問題がある発表ができる	発表できない
	④-3質疑応答	的確な質問や応答ができる	質問や応答ができる	質問や応答があまりできない	質問や応答がほとんどできない	質問や応答ができない
⑤地域が有している課題を発見できること	⑤発見した課題の内容	多様で重要な課題を見出せる	重要な課題を見出せる	重要性が乏しい課題を見出せる	課題の要素を見出せる	課題を見出せない
⑥地域が有している課題に対し、解決策を提案できること	⑥提案内容	価値が高い解決策を提案できる	価値ある解決策を提案できる	価値が乏しい解決策を提案できる	価値がない解決策を提案できる	解決策の提案ができない

### ■ 学部越境型地域志向科目の枠組み

地域課題は高度化・複雑化しており、ひとつの専門分野からのアプローチだけでは解決できないものも多い。例えば、地域への研究成果の定着、企業との新商品の共同開発のためには、理系の知識に加え、経済やマネジメント等の文系の知識が必要であることから、幅広い学問領域を基盤として備えた高度理系人財の育成が必要である。また、行政に携わる者には文系人財が多いが、地域施策の中には理系の要素を含むものも多いことから、理系の内容を理解できる人財の育成が必要である。

このため、総合大学としての強みを活かし、分野横断的内容(文理両面からアプローチ)／青森に関する内容／能動的学修の3つをコンセプトとした科目群の新設・必修化を決定した。具体的な授業内容については、「COCの4つの課題(青森の抱える課題の把握と理解)」と「課題の解決に向けた実践」を軸に検討を行った。

## 2. 地域志向科目の拡充等

地域人財の活用やフィールドワークを取り入れることのできる授業科目について、全学を対象に調査を行い、これらについて把握する。地域人財の派遣やフィールドワークの実施先について、必要に応じて自治体や企業等と調整し、地域志向科目の充実に繋げる。また、青森県内の企業の魅力を学生に伝えるため、リサーチプログラム(企業見学会等)を実施する。

## 3. 学修達成度を判断する評価基準「ループリック」

青森県庁関係者、青森県内で起業した会社社長、青森の人財の確保・育成・定着を支援するNPO法人の代表から、地域志向型人財として必要な知識、技能、能力等について、ヒアリングを行い、ループリックの案を作成した。本案をさらに精査するため、実務者レベルからなる「青森産官学人財育成パートナーシップ協議会」の下に、本学教員、企業経営者、教育委員会関係者からなる「ループリック・ポートフォリオ分科会」を平成27年1月に設置した。本分科会では、ループリックとe-ポートフォリオを活用した学生自身のPDCAサイクルの確立について検討することとしている。その概要は以下のとおりである。

ループリックにより、達成目標や到達レベルの指標を明確化する。そして、学生に、学修の蓄積・可視化を可能にする「地域志向e-ポートフォリオ」を活用して、自身の学修を振り返り、到達度評価を行うことにより、「地域志向型人財」となるために必要な学修や課題を追求させる。具体的には、「地域志向型人財」で求められるパフォーマンスのレベルを、下位の到達レベルから上位の到達レベルへと明示することで、学生は、あらかじめこれらの評価の基準等を意識して学修に取り組むことができる。また、学生は、基準に照らして自らを客観的に見つめなおし自己評価を行うことにより、目標の実現に向けた自己課題や次のステップに向けた具体的な手立てを考えることが可能となる。

## 4. 弘前大学グローバル人材育成事業

平成26年度に、学都ひろさき未来基金を設立し、弘前市や弘前市内の企業等から寄附金を受け、以下の事業を実施した。

### ① 学生市民等協働プログラム

地域課題に対してグローバルな考えで取り組み対応できる人材を育成するため、指導教員のもと学生と市民・企業人が一体となって海外研修、海外事情調査を行う。平成26年度の採択は次のとおり。



- ・地方における産官学連携、起業、社会的企業－フィンランドの先進事例に学ぶ－
- ・ロシアにおけるまちづくり系大学教員・学生との地域交流プログラム
- ・オーストラリアにおけるリハビリテーション事情(作業療法を中心に)
- ・グローバル医用システム開発人材育成協働事業【アメリカ】
- ・寒冷地高度地熱利用先進国アイスランド訪問インテンシブ地熱人材育成コース
- ・食と農のグローバル人材育成プログラム－弘前市産農産物・食品の対台湾輸出ビジネス研修－

## ② 学生海外PBLプログラム

本学学生が留学先大学学生と連携して、共有する課題についてのショートPBLを自分たちで企画・実施し、グローバル・マインドを涵養する。平成26年度の採択は以下のとおり。

- ・行動中心主義複言語・複文化プロジェクト：「弘前×ボルドー」プロジェクト
- ・「地域間人材循環モデルの構築」を題材とした学生海外PBLプログラム【大韓民国】
- ・メーン州立大学異文化コミュニケーション集中講座【アメリカ】

## 【3】 平成26年度の実施状況

### 1. 教育推進機構会議

日 付	概 要
平成26年 4月25日	教養教育骨子案について
平成26年 9月25日	地(知)の拠点整備事業の概要
	教養教育の検討状況について
平成27年 1月30日	新しい教養教育における授業科目について
	基礎ゼミと地域学ゼミについて
	初年次教養教育英語科目について
	キャリア教育について
	教養教育整理枠組みについて
	新しい教養教育における多言語について

### 2. 教育研究評議会

日 付	概 要
平成26年 5月13日	教育推進機構会議報告
平成26年 7月 9日	教養教育のコンセプトについて
平成26年10月14日	新しい教養教育について
	教育推進機構会議報告
平成27年 2月10日	教育推進機構会議報告



## 3. 教育推進室会議

日 付	概 要
平成26年 6月13日	今後のスケジュール・教養科目の目的等・教養教育に関する大学視察
平成26年 6月20日	専門基礎科目・高大接続科目・多言語 他大学視察
平成26年 6月20日	基礎ゼミ及び地域学ゼミ
平成26年 7月11日	教職科目
平成26年 7月18日	ローカル型課題科目・グローバル型課題科目
平成26年 8月22日	ローカル型課題科目・グローバル型課題科目
平成26年 8月29日	基礎ゼミ及び地域学ゼミ
平成26年 9月12日	ローカル型課題科目・グローバル型課題科目
平成26年 9月19日	英語教育
平成26年 9月26日	キャリア教育
平成26年10月22日	学部越境型地域志向科目・新しい教養教育における授業科目の依頼
平成27年 1月 9日	基礎ゼミ・地域学ゼミの実施案について
	新しい教養教育の洗い出し結果について
平成27年 1月23日	英語と高年次キャリア教育の実施案について

## 4. 基礎ゼミ・地域学ゼミワーキング・グループ

日 付	概 要
平成26年 9月24日	基礎ゼミと地域学ゼミについて (達成目標・授業展開イメージ)
平成26年10月17日	基礎ゼミ・地域学ゼミ (手引き・シナリオ・評価基準の作成)
平成26年11月 5日	基礎ゼミ・地域学ゼミ (手引き・シナリオ・評価基準の作成)
平成26年11月13日	基礎ゼミ・地域学ゼミ (試行・ワークシート・評価・シナリオ・授業運営支援案)

## 5. キャリア教育ワーキング・グループ

日 付	概 要
平成26年10月17日	キャリア教育概要
平成26年10月31日	初年次必修科目
平成26年11月17日	初年次必修科目・2年次以降選択必修
平成26年11月21日	初年次必修科目・2年次以降選択必修

## 6. 英語ワーキング・グループ

日 付	概 要
平成26年10月10日	検討課題の確認
平成26年10月29日	達成目標
平成26年11月17日	共通指導項目・外部検定試験・試行
平成26年11月28日	共通指導項目・外部検定試験・試行
平成26年12月 9日	1年次英語教育まとめ・試行
平成27年 2月12日	2年次英語教育